

(1) 令和5年度 教職員による自己評価 及び 学校関係者評価

静岡雙葉中学校・高等学校

| 評価項目 | | 自己評価 | 学校関係者評価 | |
|------|---|--|---------|---|
| 1 | 宗教教育の充実・精神性の涵養 ①宗教の授業、宗教行事、聖堂での朝の祈り、朝礼時に聖歌を歌うことを通して、豊かな心を育む。 ②精神性を育むために、学年毎の1年間の経営計画に則って、多面的に活動する。 【実践と自己評価】各学年、次の通り、宗教行事を実施した。中1：錬成会(10月、2泊3日)、中2：錬成会(10月、2泊3日)、中3：黙想会(1月、1日)、高1：研修会(10月、2泊3日)、高2：黙想会(12月、1日)、高3：黙想会(10月、1日)。特に宿泊を伴う宗教研修の実りは大きく、学年の連帯感や生徒の自己肯定感を育む貴重な場となっている。 | A | A | 中高の6年間、宗教の授業や宗教行事を通して、生徒が自分の生き方を振り返る機会が全学年に設けられていることが静岡雙葉の教育の大事な柱になっている。コロナ禍の間も宗教行事を中止せずに工夫して継続してきたことも評価したい。 |
| | 学習指導の充実・学力の向上 ①学年毎の教育計画、各教科の実践計画に基づき、計画的に教科教育を実施する。 ②基礎・基本の定着、授業中心の学習体制の確立により、学力の向上を図る。 ③観点別評価の方法を研究し、生徒の学習意欲をより高めることに役立てる。 ④生徒1人ひとりに配布されたiPadなどの個人持ちの端末や他のICT機器を有効に活用し、主体的学習や、情報を収集整理し、発信する学習活動が行われるような授業展開について更に研究し、実践する。 ⑤知的好奇心を高めるため、また視野を広げるため、4年振りに現地で実施される海外研修や英語検定試験の各種検定、大学が企画するセミナー、公開講座への積極的参加を促す。 【実践と自己評価】①コロナ感染症対策として、罹患して欠席している生徒に対し、希望に応じて授業のオンライン配信を行った。②中1・中2では学習習慣を定着させる指導に力を入れており、中3では高校での学びを意識させるように指導している。高校生は自ら時間管理を行う姿勢の定着により学習意欲を高め、それを行動に移せる生徒が育っている。③高2以下は観点別評価について、保護者にも丁寧に説明を行った。④夏休み中に、各ホームルーム教室に電子黒板機能付きのプロジェクターを設置し、合わせて黒板をホワイトボードに交換することで、ICT機器の効果的活用のためのより良い環境を整えることができた。⑤4年振りにイギリス研修を現地実施することができ、中3・高1で計25名が参加した。中3の3名が1月～3月のニュージーランドターム留学に参加した。中1では約80%が英検を受験し、高2の英検2級取得率が52%となった。 | A | | A |
| 3 | 自律性や社会性及び公共心の育成(生徒指導) ①基本的な生活習慣の確立に努める。 ②自律心、公共心及び社会的規範意識の育成を図るとともに、スマートフォンやインターネット、SNSの功罪、注意点について学ぶ。 ③社会性、自治能力、自律心の育成を図るため、生徒会活動、委員会活動、学級・学年活動を充実させる。 ④豊かな精神性を培うため、福祉施設(クリスマス)訪問、ボランティア活動、各種献金活動を充実させる。 【実践と自己評価】①中一・中二は生活の記録、中三・高1は手帳による時間管理の指導により学力向上に欠かせない生活習慣、学習習慣の確立を併せて指導している。②スマホ、SNSに関しては、どの学年でも適切な使用に向けての対策が必要な現状が見られる。③各学年の宿泊行事が通常の実施に戻り、高2の研修旅行実行委員会など主体的に生徒が取り組む体制に戻ってきている。④12月のクリスマス訪問では、昨年度よりも直接訪問できる施設が増え、以前の状況に戻りつつある。創立120周年関連の企画としてのクリスマスマーケットも多くの来場者を迎え、充実したものとなった。 | A | A | 基本的な生活習慣の定着や自立心、公共心の育成は、家庭教育に依存するところが多いが、学校での指導も、家庭と連携、協力して大切にしたい。 スマートフォン、SNS、インターネットの使い方や注意点は、最新の情報を元に学年に合った啓発活動を続けて欲しい。 宿泊行事は生徒同士の関わりを育て、精神的な成長を促すものであるため、これまでの経験を活かして、一層よいものとなるように期待する。 |
| | たくましく未来を切り開く力の育成(進路指導) ①著名人や大学教授、先輩等による講演、校外のオープンセミナー、大学見学、海外研修等の様々な体験活動等への生徒の積極的参加を促す。 ②大学入試の最新情報を把握し、的確な進路情報を生徒・保護者に提供する。 ③開始から4年経った中三～高2の「コース制」の取り組みを振り返り、3ヶ年のプログラムを修正したり、新しい体験や講演会を企画したりするなど、内容を更に良いものにする。 【実践と自己評価】①7月に東京工業大学副学長の上田紀行氏を、11月には本校卒業生でTVドキュメンタリー番組制作の監督の勾坂緑里氏をお迎えし、「未来への志を育む講演会」を2回実施した。10月に高1で5大学の先生方による出張講義を実施、11月には高1・高2の希望者が早大先進理工学部の先生による対面模擬授業に参加した。②高校では他にも進路講演会などの機会を活用して新課程の情報を発信している。③2月の高2コース制発表会では、13教室を会場にプレゼンテーション(各2回)を実施した。パネル発表から全面的にICTを活用する発表にした結果、更に充実した分かりやすい発表となった。 | A | | A |
| 5 | 生命の安全確保 ①大規模災害に備え、総合的防災マニュアルを更に見直し、実践につなげる。 ②災害時、学校への宿泊を想定し、防災備品の更なる充実を図る。 ③年度計画に基づき、校内施設、設備の点検、特に防火設備、防災設備の点検を確実に実施する。 ④防災訓練は、様々な場合を想定してより実践的なものとなるように工夫し、生徒の防災意識と危機対応能力の向上を図る。 【実践と自己評価】①新生徒避難計画の策定が完了したので、年度中に全職員に周知し、次年度より運用を開始する。②中一の防災用品(乾パン・水2本・アルミブランケット)は早期購入ができた。③夏休みに講堂2階倉庫の防災用品の点検を実施し、防災用毛布は、4階旧購買部の棚に移動した(100枚)。また、今年度予算で防災用圧縮毛布を200枚購入し、来年度も200枚購入予定で、合計500枚で残留生徒分を賄う。④iPadを用いた安否確認を行う防災訓練を夏休み明けに実施、また、生徒発案による防災訓練として「防災アンケート」を実施した。3月には静岡葵消防署の協力による水消火器の操作訓練を実施した。 | B | A | 防災備品の整備や訓練の実施など、計画から進捗が大きく遅れたところもなく、また生徒発案のアンケートを実施するなど、生徒の防災意識の向上に繋がる取り組みをしているのでA評価で良いのではないかと。 防災用品は十分に備蓄していると思うが、災害発生時に備蓄品が不足することも想定し、食料や飲料水を提供してもらえる外部の団体(企業)を調べることも検討して欲しい。 |
| | (学校側のまとめ) コロナ禍がほぼ収まり、まだ完全ではないが学校生活がやっと正常な状態に戻ってきた。学校行事も以前の形で、全て予定通りに実施することができ、特に長い年月を掛けて作り上げてきた宿泊行事の意義深さ(行事を通しての生徒の成長)を実感した。コース制や新しい大学入試制度、ICT教育など、社会の変化に対応した様々な取り組みも、教員たちの熱心な努力により軌道に乗ってきている。 | (学校関係者評価委員会のまとめ) キリストの教えを基盤にした精神性の涵養と、6ヶ年を見据えた計画的な学習指導に加え、最新のICT機器の導入、活用により質の高い教育実践がなされていることを高く評価したい。コース制の取り組みは、高2での成果発表会が3回目を迎え、ますます充実、発展していることが、今年度卒業生の素晴らしい進路実績からも実感できる。今後も更なる努力を重ね、充実した教育活動を展開し、入学志願者増にもつなげて欲しい。 | | |